



道総研

2024年10月 日本海スケトウダラ資源調査結果

令和6年12月23日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 0162-32-7166

中央水産試験場 0135-23-8707 函館水産試験場 0138-83-2892

- ◎魚探反応量（暫定値）は、宗谷・留萌海域で前年比 1.34、石狩・後志海域で前年比 1.56、檜山・渡島海域で前年比 2.13
- ◎利尻・礼文島周辺海域および武藏堆西部海域では尾叉長 30 cm 前後の 3 歳魚（2021 年級）主体で、45 cm 前後の個体が混ざる
- ◎留萌沖では、300 m 以浅では尾叉長 18 cm 前後の 1 歳魚（2023 年級）が主体で、300 m 以深では 20 cm 台の 2~3 歳魚（21~22 年級）が主体
- ◎積丹沖、岩内沖、檜山では尾叉長 45 cm 前後が主体で、積丹沖では 30 cm 台の 4~5 歳魚（2019~2020 年級）も多い

1. 調査概要

2024年10月16日～30日に道西日本海の図1に示した海域において、稚内水試・北洋丸と函館水試・金星丸により、計量魚群探知機と着底トロール網を用いたスケトウダラ資源調査を実施しました。

2. 魚探反応量

強い魚探反応が見られたラインの魚探画像を図2に、魚探反応量 NASC の分布を図3に示します。今年度の調査では、武藏堆北部～西部（ライン A とライン B の沖側）と積丹沖（ライン I, J）で強い反応が見られました。

海域別の反応量は、宗谷・留萌海域で前年比 1.34、石狩・後志海域で前年比 1.56、檜山・渡島海域で前年比 2.13 であり、全体では前年比 1.46 でした（魚探反応量は暫定値）。

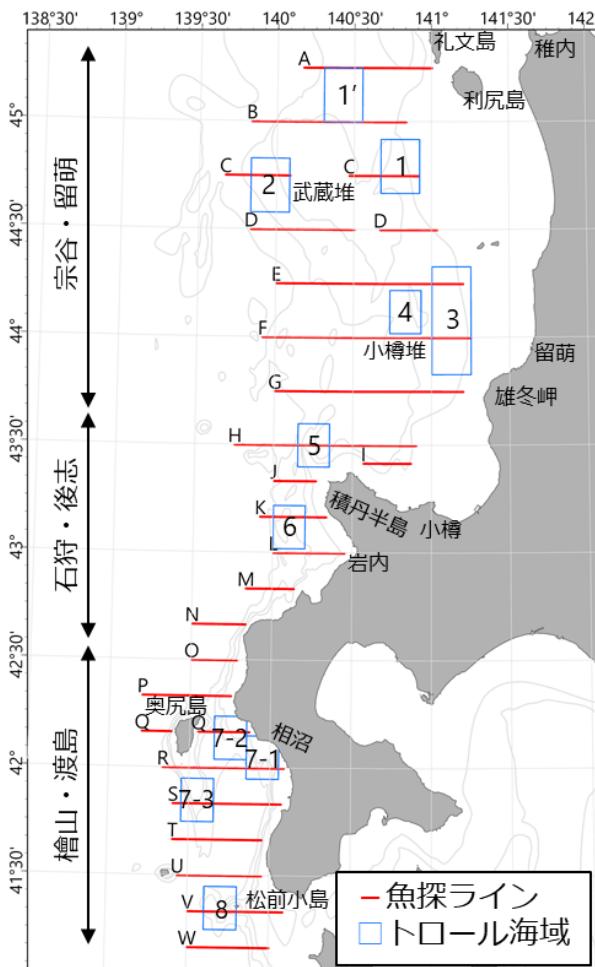


図1. 調査海域図

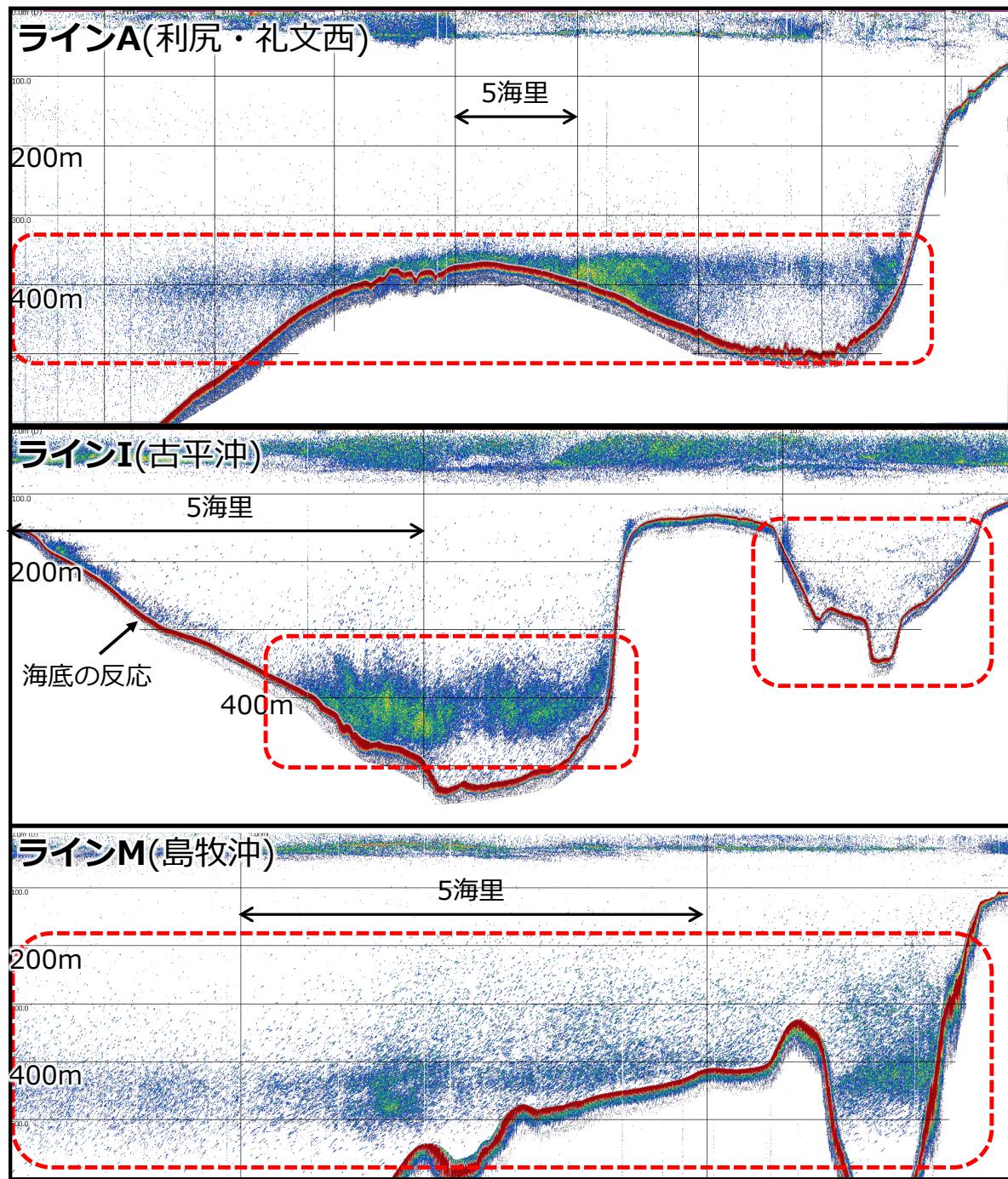


図 2. 強い魚探反応が見られたラインにおける魚探画像（エコーラム）.

赤点線枠内はスケトウダラ魚群と見られる反応. 各画像の右側が沿岸側.

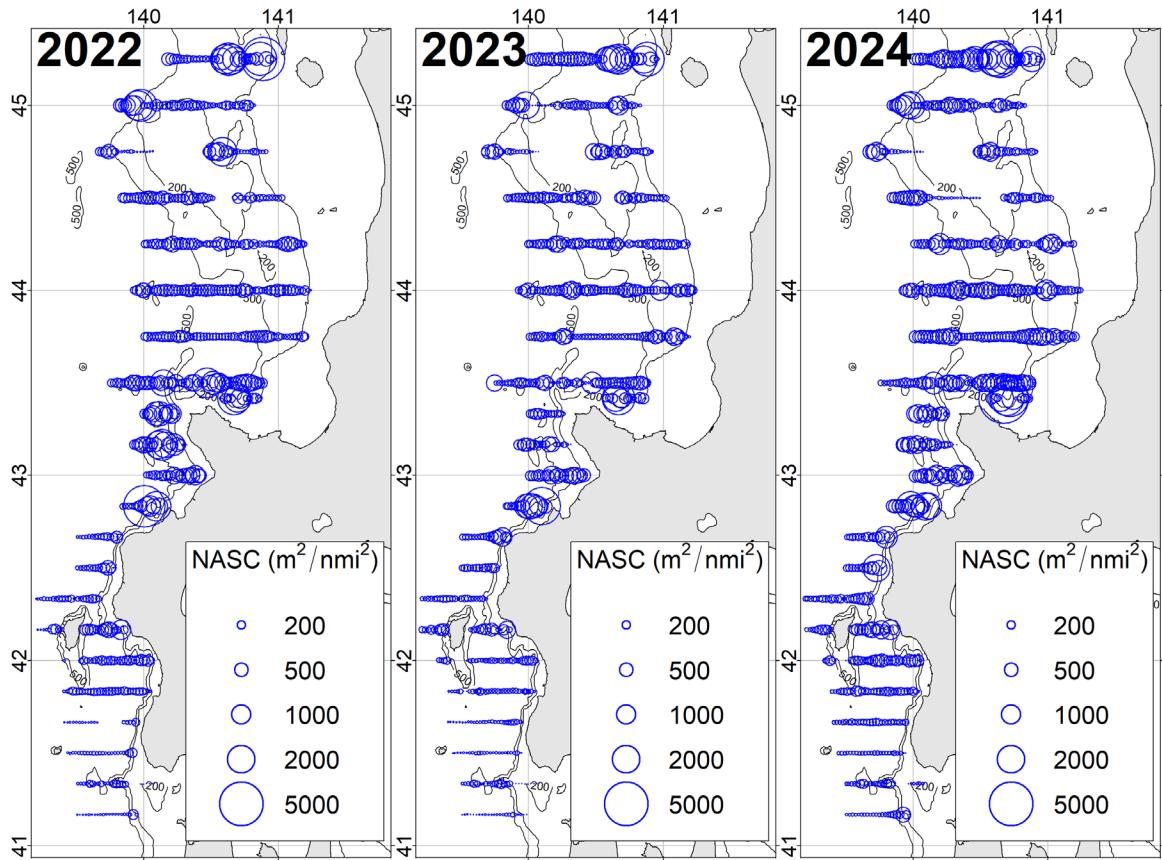


図 3. 魚探反応量 NASC の分布。
NASC : 1 平方マイルあたりの魚探反応量で魚群分布量の指標になる。

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 4 に示します。利尻・礼文島周辺海域および武蔵堆西部海域(トロール海域 1', 2)では、尾叉長 30 cm 前後の 3 歳魚(2021 年級)が主体で、幅広いサイズの個体が漁獲されました。

留萌沖(トロール海域 3)では、海底深度 300m 以浅では尾叉長 18cm 前後の 1 歳魚(2023 年級)が多く漁獲され、海底深度 300m 以深では尾叉長 20cm 台の 2~3 歳魚(2021~2022 年級)が主体でした。

積丹~檜山海域(トロール海域 5~7)では尾叉長 45cm 前後の個体が主体で、積丹沖では 30cm 台の 4~5 歳魚(2019~2020 年級)も多く漁獲されました。

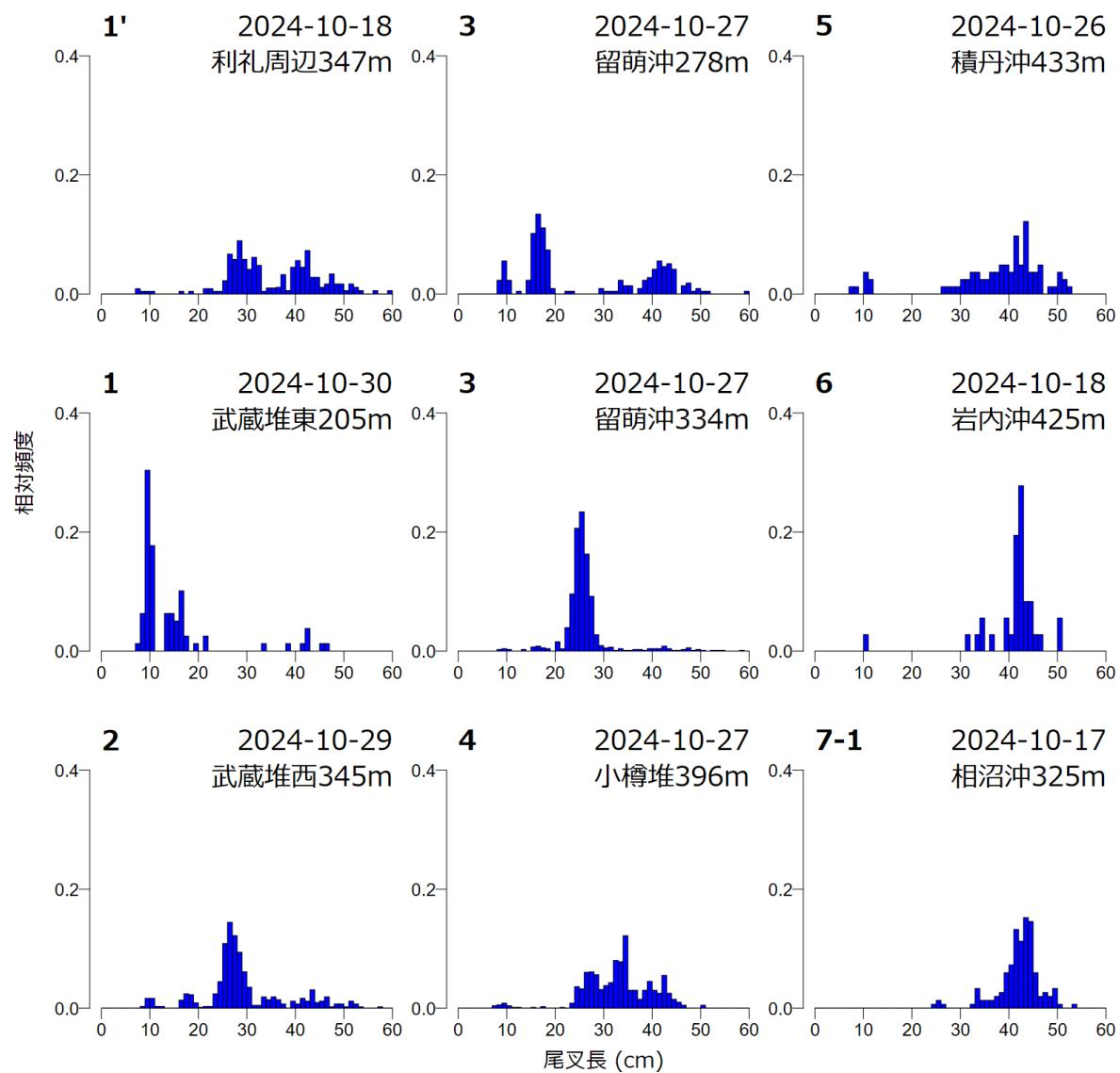


図 4. スケトウダラの尾叉長組成 (2024 年 10 月道西日本海).

各グラフ左上数字は図 1 のトロール海域番号と対応.